

旧内閣中央航空研究所に係る地歴情報について（案）

毒ガス情報センターにおいて、神栖市の事案に係る地歴情報の収集を行っていたところ、戦時中における旧内閣中央航空研究所について下記の情報が得られた。

1．情報源

元内閣中央航空研究所関係者が昭和22年に記した「中央航空研究所の活動並びに業績」(日本航空学術史編集委員会編『日本航空学術史(1910-1945)』所収)

2．旧内閣中央航空研究所に係る情報の概要

元内閣中央航空研究所関係者の手記には概要以下の記載がある。

中央航空研究所は、昭和14年4月1日に逓信省の一本局として設立され、技術院の設置に伴い、昭和17年に内閣に移管されて内閣総理大臣が管理中に終戦となった。そして同院の廃止に伴い昭和20年9月運輸省に移管され、同年12月31日に廃止された。

研究所は、研究所本所(東京府北多摩郡三鷹町)・水上飛行研究場(横浜市磯子区)・陸上飛行研究場(茨城県鹿島郡軽野村)に存在しており、その研究内容は、一般空気力学研究部門・高速空気力学研究部門・水力学研究部門・飛行実験研究部門・航空人体科学研究部門・工作その他研究部門・機体及びプロペラ研究部門・発動機研究部門・燃料および潤滑油研究部門・材料研究部門であった。

このうち、神栖市の関連では、「茨城県鹿島郡息栖および軽野両村に建設中の陸上飛行研究場は40m×50mの格納庫2棟、飛行機および諸研究設備を整備するに止まった。なお、研究場所は、一大研究飛行場を建設するために買収した敷地240万坪の一部に設けられたものである」と記されているが、旧内閣中央航空研究所が旧軍毒ガス弾等の研究及び実験並びに訓練等に関与したとの情報や、茨城県鹿島郡息栖および軽野両村に建設された陸上飛行研究場と旧軍との関わりについての情報は記されていない。

3．今後の対応

現在までの資料等調査においては、旧内閣中央航空研究所と旧軍毒ガス弾等の関連性を示唆する情報は確認されていないが、引き続き、毒ガス情報センターにおいて、所要の情報収集を継続することとする。